

令和元年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立東部特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立東部特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部

1. 使用状況

寄贈物品名	スウィング遊具
使用学年及び人数	小学部1～6年 45人
使用頻度	空き教室に常設し、いつでも利用できる状態に設置
使用状況	室内に常設し、あそびの学習で活用する。 必要に応じて屋外に運び活用する。 休み時間の余暇活動で利用する。
物品の使用による変化や効果	あそびの単元で繰り返して利用することで、児童は恐怖心がなくなり、遊具に乗って揺れることに慣れ、「もっとやりたい！」という気持ちを出せるようになった。また、車いすで自走して、自分からブランコの教室まで移動する姿も見られるようになった。 児童は、揺れる遊具で不安定な動きに慣れることで、平衡感覚を高め、感覚統合で大切なバランス感覚を養うことができている。 余暇活動では、ブランコの周りにたくさんの児童が集い、交流の場になっている。
今後の活用の見通しや課題	スウィングサポートフレームの教室間移動をせずに、教室に設置されている天つり金具から直接スウィングをつり下げて利用する。または、スウィングサポートフレームに異なるスウィングをつるす。 多様にアレンジし、児童の興味、関心を喚起し、体の感覚を協調させるように促し、感覚統合をねらう。
その他希望や所感など	ハンモックやつり輪など、他のスウィングを購入し、さらに楽しめる教具にしていきたい。

2. 活用の様子



座位がとりにくい児童は、
補助具やクッションチェアを利用しています。